

林野火災に注意してください

<気象概況>

- 東日本太平洋側や西日本の広い範囲で、降水量がかなり少ない状況になっています。
- 特に東海、近畿太平洋側、四国、九州南部の12月末からの4週間の降水量は、この時期として**30年に一度程度の顕著な少雨**となっています。
- 今後1か月程度は、まとまった降水にはならない見込みです。

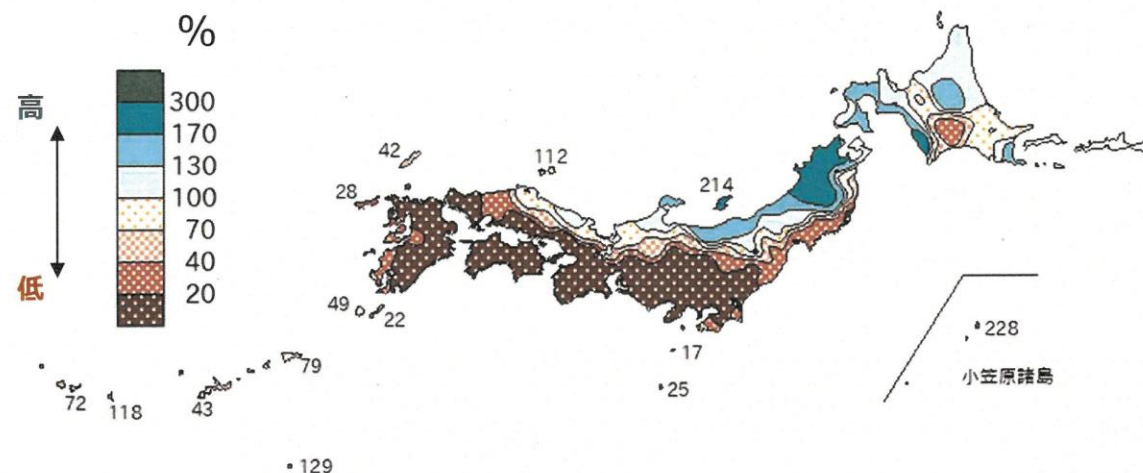
<注意事項>

- 記録的な少雨になった令和7年は、冬から春にかけて大規模な林野火災が全国的に多く発生しました。
- **少雨となっている地域では、林野火災予防のため、火の取り扱いに十分注意してください。**

少雨の状況

- 東日本太平洋側や西日本の広い範囲で、昨年11月から低気圧の影響を受けにくく、降水量がかなり少ない状況になっています。
- 特に東海、近畿太平洋側、四国、九州南部の12月末からの4週間の地域平均降水量は、過去の同期間と比べて30年に一度程度の顕著な少雨となっています。
- また、関東甲信、九州北部地方でも、すでにかんがりの少雨となっており、今後、30年に一度程度の顕著な少雨の状況となることが予想されます。

降水量平年比の状況
2025年12月26日～2026年1月20日
※特に少雨となっている期間

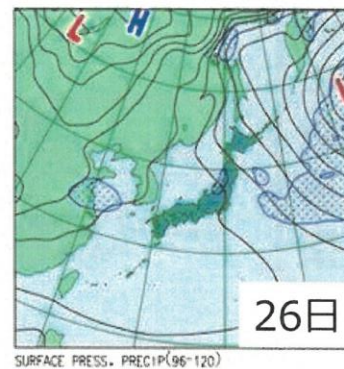
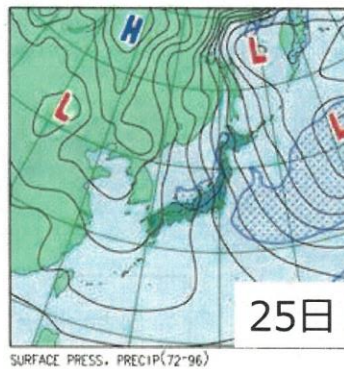
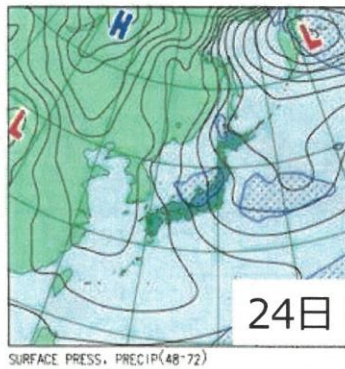


12月26日～1月20日の
主な地点の降水量

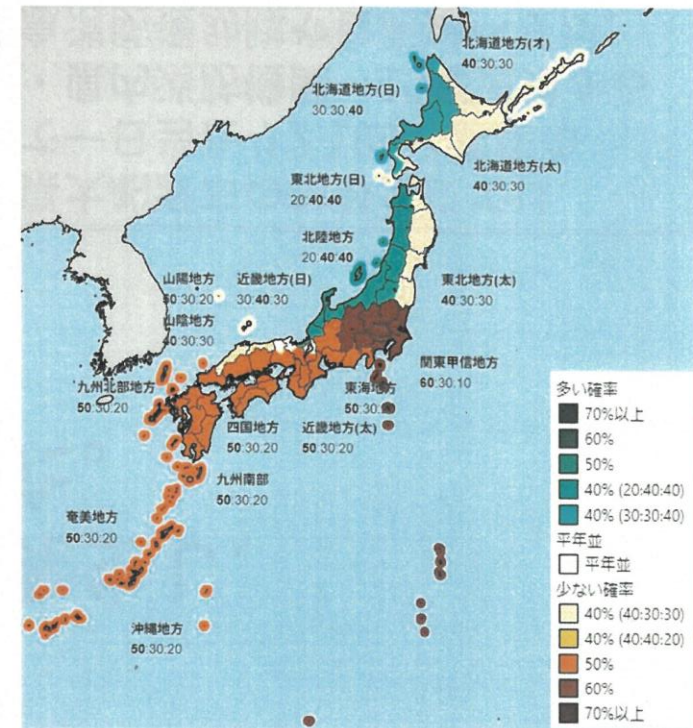
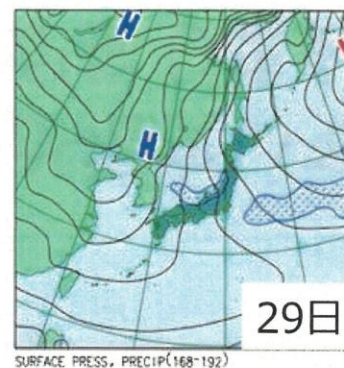
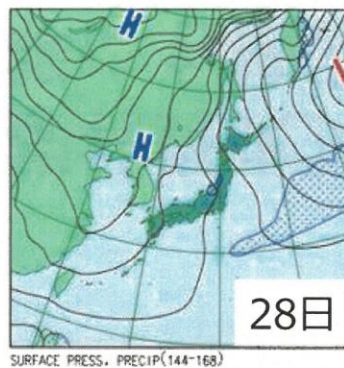
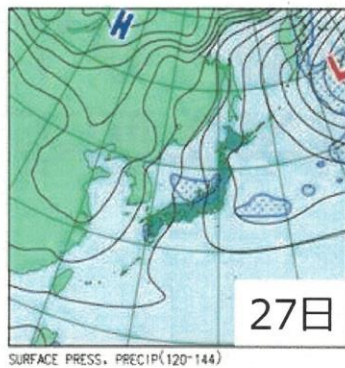
地点	降水量 (ミリ)	平年比 (%)
前橋	0	0
甲府	0	0
名古屋	0	0
大阪	1.5	4
高知	0	0
福岡	11	19
宮崎	0	0

今後の見通し

- 東・西日本太平洋側の向こう一週間は、冬型の気圧配置が続き晴れる日が多い見込みです。向こう1か月も低気圧の影響を受けにくいと、降水量が少ない予想となっており、少雨を解消するようなまとまった降水とはならない見込みです。
- 冬型の気圧配置により、風の強い状態が続く見込みです。



Hは高気圧、Lは低気圧、ハッチは雨域

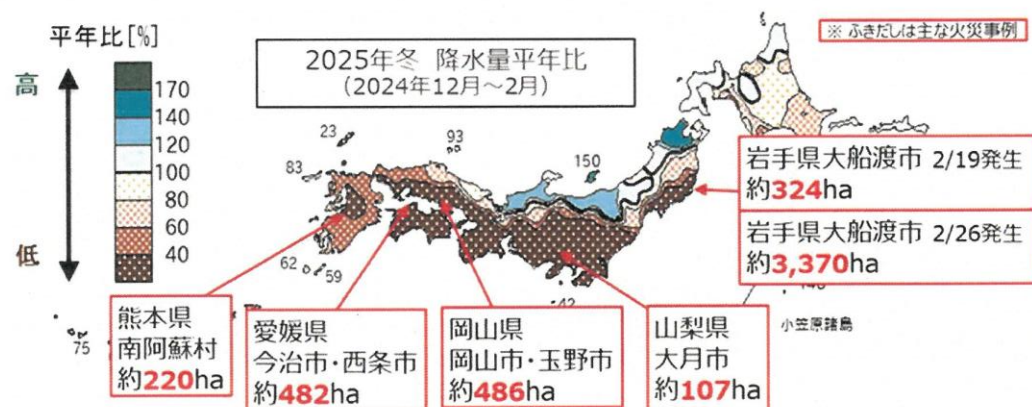


週間天気予報 <https://www.jma.go.jp/bosai/forecast/>

1か月予報 <https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/kaisetsu/?term=P1M>

記録的少雨だった令和7年の状況

○全国で大規模林野火災が相次いで発生し、人命・住家等にも被害が生じました。



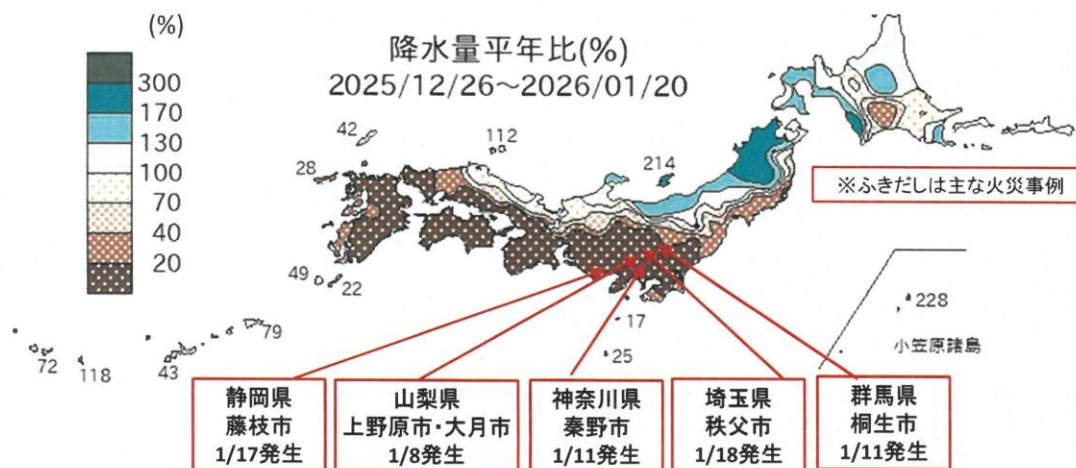
※焼損面積は速報値であり、今後変更の可能性があります。

岩手県大船渡市の林野火災では、最大で一日当たり2,100名規模の地元・県内消防機関・15都道県からの緊急消防援助隊や自衛隊ヘリが、地上・上空から懸命な消火活動を実施



令和8年における主な林野火災の状況

○令和8年も少雨の中、各地で林野火災が発生し、山梨県では林野火災が大規模化しました。

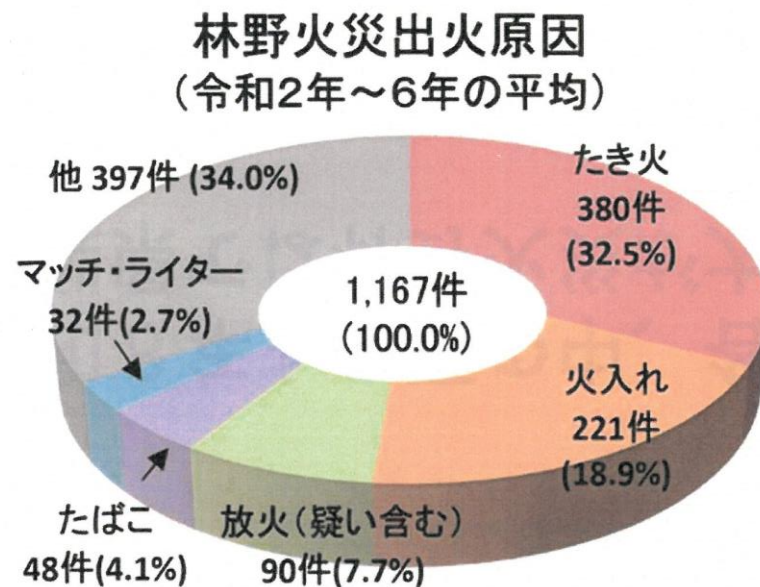


山梨県上野原市・大月市を始め、各地で発生した林野火災では、地元消防本部や消防団のほか、県内消防応援隊、近隣都県の消防防災ヘリ・自衛隊ヘリが、地上・上空から懸命な消火活動を実施



林野火災の原因

- 林野火災の原因の多くは人の手によるものです。
- 乾燥・強風時の屋外での火の使用は意図しない林野火災を発生させるおそれがあります。



少雨で林野火災に注意が必要な状況です

- 乾燥・強風時は、林野火災の発生や延焼拡大の危険が高いため、屋外での火の使用はしないでください。
- 林野火災注意報、林野火災警報は、火災予防条例に基づいて市町村長が発令します。
- 市町村・消防本部の発令情報を確認してください。



林野火災注意報

- ・林野火災が発生しやすいときに発令
- ・指定区域内の屋外での火の使用を控える



林野火災警報

- ・林野火災が大規模化しやすいときに発令
- ・指定区域内の屋外での火の使用は禁止（罰則あり）

林野火災警報・林野火災注意報が発令されていないときも

- 「たき火」や「火入れ」を行う際は、
消防機関への届出が必要です。

※森林やその周囲で火入れを行う際は、市町村長の許可が必要

- 屋外での火の使用の際は、
周囲に燃えやすいものがないか確認の上、
消火用水を準備し、目を離さないでください。

届出が必要な「たき火」の例



屋外での火の使用の注意点



周囲に
燃えやすい
ものがない
ことを確認



消火用の
水を準備



火から目を
離さない



使用後は
完全に消火



林野火災
警報時の
たき火等は
禁止



林野火災
注意報時の
たき火等を
避ける



火を使う
場所での
ルールを
守る

かけがえのない森林を火災から守りましょう！

森林には、土砂災害の防止や、水源のかん養など、様々な働きがあります。

林野火災で森林が焼失すると、復旧にはたいへんな年月と労力がかかります。

■ 被害地の復旧



被災後



植栽後

森林の有する多面的機能

森林には、土砂災害の防止や、水源のかん養など、様々な働きがあります。

森林の多面的機能は、一部の貨幣評価できるものだけでも年間70兆円。

土砂災害防止／土壌保全
・表面侵食防止【28.3兆円】
・表層崩壊防止【8.4兆円】等



保健・レクリエーション
・保養【2.3兆円】
・行楽、スポーツ、療養



物質生産
・木材（建築材、燃料材等）
・食料（きのこ、山菜等）等



快適環境形成
・気候緩和
・大気浄化
・快適生活環境形成



水源涵養
・洪水緩和【6.5兆円】
・水資源貯留【8.7兆円】
・水質浄化【14.6兆円】等



地球環境保全
・二酸化炭素吸収【1.2兆円】
・化石燃料代替エネルギー【0.2兆円】



生物多様性保全
・遺伝子保全
・生物種保全
・生態系保全

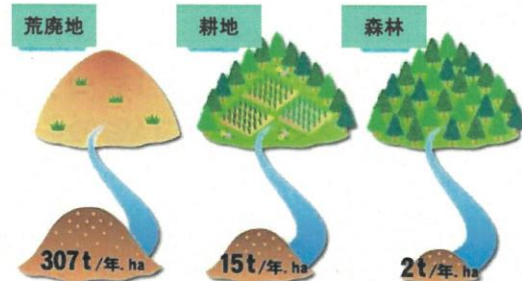


文化
・景観、風致
・教育
・宗教、祭礼
・芸術
・伝統文化
・地域の多様性



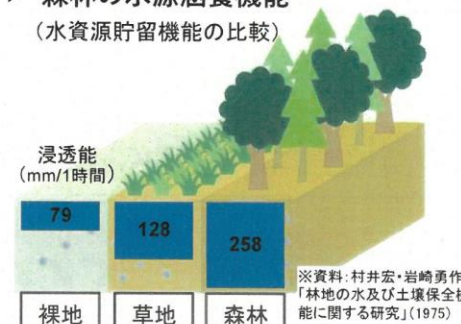
資料：日本学術会議答申「地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的機能の評価について」及び同関連付属資料（平成13年11月）
注：【】内の金額は、森林の多面的機能のうち、物理的な機能を中心に貨幣評価が可能な一部の機能について評価（年間）したもの。
いずれの評価方法も、一定の仮定の範囲においての数字であり、その適用に当たっては注意が必要。

▶ 森林の国土保全機能（流出土砂量の比較）



※資料：丸山岩三「森林水文」実践林業大学（1970）

▶ 森林の水源涵養機能（水資源貯留機能の比較）



※資料：村井宏・岩崎勇作「林地の水及び土壌保全機能に関する研究」（1975）

【参考】最新の気象情報

- ・火を取り扱う際は、気象台が発表する乾燥注意報や強風注意報、これまでの降水の状況等に留意してください。

○現在の状況

- ・気象警報・注意報（乾燥、強風等）
- ・最新の気象データ（1～72時間降水量）
- ・天候の状況（10～120日間降水量）
- ・現在の天候状況（アメダス観測値）

○今後の見通し

- ・天気予報 週間天気予報
- ・季節予報
- ・気象情報

林野火災予防ポータルサイト （気象庁）

これらの情報は気象庁HP内の
林野火災予防ポータルサイトに 掲
載されています。



<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/rinya/rinyakasai.html>